

自治会の活性化に向けた意見交換会

日 時：令和6年9月20日（金）19時～21時

場 所：河内地区市民センター

趣 旨：自治会の活性化に向けて、自治会の現状に関する参加者の意見や改善に向けたアイデアなどについて、若手経営者やNPO団体代表など自治会と連携する立場の方々と議論することを目的

参加者：飯沼貞臣（有限会社上河内精機製作所 代表取締役）

石井大一郎（宇都宮大学地域デザイン科学部 教授）

岩井俊宗（NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク 代表理事）

梅村英美子（特定非営利活動法人うつのみやオリーブ 理事長）

永祚純（株式会社A X I A 代表取締役）

小高記美子（相続手続支援センター宇都宮 代表）

※オブザーバー：河内地区連合自治会 永井会長



自治会の活性化に向けた意見交換会

自治会の現状に関する参加者の意見など

- ・ 地域の会議ではそれぞれの参加者が遠慮し、思ったことを率直に発言していない印象を受ける
- ・ 役員や執行部が一方的に決定事項を伝えるだけという雰囲気がある
- ・ 一人の住民の立場では内側から思ったことを発言しにくい
- ・ 事業者や団体の立場から、自分が住んでいる自治会とは別の自治会に対しては率直に意見を伝えやすい
- ・ 地域から「助けてほしい」と声を上げてくれないと外部から関わりにくい
- ・ 新しいこと、楽しいことに取り組もうという雰囲気を感じない地域もある
- ・ 役員が固定化し、前例踏襲の取組が多くなっている例もある
- ・ 地域の情報が回ってこない、動きが見えないと感じる

改善に向けたアイデアなど

- ・ 地域住民がお互いにものを言いやすい関係性が重要
- ・ 参加者が平等に意見交換を行うために外部の人間がファシリテーター（※）として関わる
- ・ イベントの運営・改善などに事業者や団体、学生の力を借りる取組の拡大
- ・ 自治会をサポートする仕組み（「かわち自治会応援隊」の横展開）
- ・ 単発のイベントや会計事務などの外部委託の推進
- ・ 実働部隊のすそ野を広げる
- ・ 地域の中で新しいことを始めたい人に補助金を出す
- ・ やりたい人が気軽に事業を始め、続けたければ続け、終わりにするなら終わりにできる
- ・ デジタルを活用した情報伝達の仕組み
- ・ 自治会の活性化＝動きが見える（感じる）こと

※ 会議などの場で中立的な立場に立った上で、参加者の発言を促し、意見をまとめることで、話し合いを円滑に進め、より良い結論に導く進行役